

## 第3学年国語科学習指導案

日時 平成20年10月10日(金) 5校時  
児童 3年1組(男21名,女17名 計38名)  
指導者 教諭 河野 憲二

### 1 単元名 大事なことをたしかめよう

教材名 ①すがたをかえる大豆(国文 牧衛 光村下)  
②食べ物はかせになろう

### 2 単元の目標

◎中心となる語や文、段落相互の関係に注意して文章を読むことができる。

◎本での調べ方を知り、身近な食べものについて調べ、分かりやすくまとめて友だちと交流することができる。

○段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。(読 イ)

○内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら読むことができる。

(読 オ)

○調べて書く必要のある事柄を収集したり、選択したりすることができる。(書 イ)

○書こうとすることの中心を明確にしながら、段落と段落の続き方に注意して書くことができる。

(書 エ)

○文章全体における段落の役割を理解することができる。

(言 オ)

### 3 単元の評価規準

◎中心となる語や文、段落相互の関係に注意して文章を読んでいる。

◎本での調べ方を知り、身近な食べものについて調べ、分かりやすくまとめて友だちと交流している。

○段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解しようとしている。(読 イ)

○内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら読もうとしている。

(読 オ)

○調べて書く必要のある事柄を収集したり、選択しようとしている。(書 イ)

○書こうとすることの中心を明確にしながら、段落と段落の続き方に注意して書こうとしている。

(書 エ)

○文章全体における段落の役割を理解しようとしている。

(言 オ)

### 4 単元について

#### (1) 教材について

本単元にかかわる小学校学習指導要領の目標は、「C 読むこと」の「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」と「B 書くこと」の「相手や目的に応じ、調べたことが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」である。また、主な内容としては、「C 読むこと(1)イ目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。オ目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら読むこと。」「B 書くことイ書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。エ書こうとすることの中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書くこと。」である。

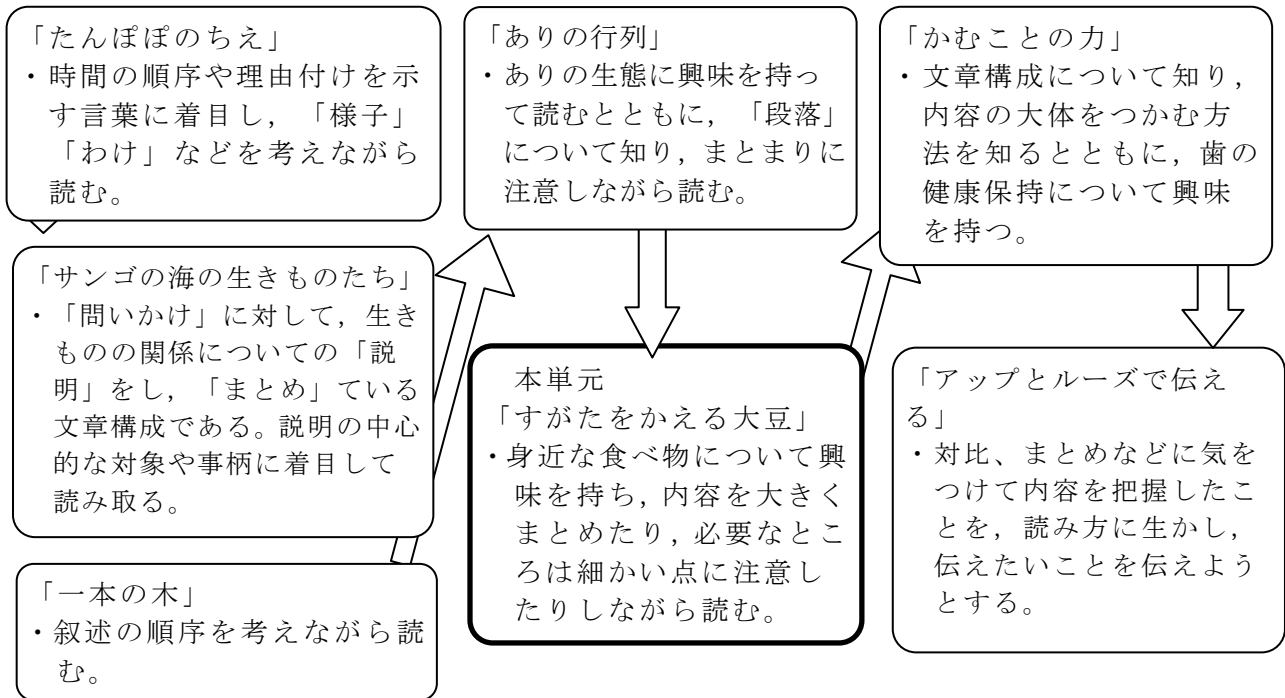
本教材「すがたをかえる大豆」は、身の回りにあふれている大豆やその加工食品について書かれたもので、身近な題材といえる。また、大豆の加工食品は、見ただけでは大豆からできているとは思われないものが多く、さまざまにすがたをかえる大豆に興味関心をもって読み進めることのできる教材である。文章構成は「初め」「中」「終わり」から成り立っており、「中」の構成は段落相互が並列の関係にあり、その各段落が、初めに中心文、その後それを支える文という論の展開を繰り返している。児童にとって分かりやすい構成となっているため、複合教材である「食べ物はかせになろう」では、本教材で学習したことをもとに書く活動に容易に取り組めるようになっている。

(2) これまでの学習との関連

【2 年】

【3 年】

【4 年】



(3) 児童について

学級児童数が38人と人数の多い学級である。一人学び中の個別の指導・支援などを必要としている児童も多い。そこで、本学級では、誰もがある程度自力で取り組める一人学びの内容と、早く終わった児童に対して何をすべきかの指示・学習訓練が重要であると考えこれまで指導してきた。

1学期に学習した「ありの行列」では、中心文や段落の構成、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むことなどを学習した。学習を通して、中心文と段落の構成については力を付けてきている。しかし、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むことについては、接続語やキーワードを手がかりにして、ありの様子をノートにまとめることはできたものの、実際にペープサートや動作化で確認してみると、正確に文章を読み取れていない児童が多くいた。一人学びで読み取った内容を、学び合いを通してより深められるように学習を進めていくことが必要である。

(4) 指導にあたって(仮説との関わり)

児童の個人差に配慮して、単元導入前までに10分間ドリルを活用して既習事項の確認をし、既習を生かしながら学習を進められるようにする。本単元は複合単元となっており、「すがたをかえる大豆」の学習を通して筆者の論の展開を把握することが「食べ物はかせになろう」の書く活動の基礎となっている。そこで、研究主題である「確かに読む力」を育てるために、研究仮説1と研究仮説2に関わって以下の手立てを行う。

【研究仮説1「読むこと」の学習指導過程に確かに読むための「書く活動」を取り入れる。】

- ア 文章構成をつかませるために、接続語と食品の名前を丸で囲むこと。
- イ 段落のおよその内容を把握するために、中心文にサイドラインを引くこと。
- ウ 大豆がどのように手を加えられていくか細かい点に注意して読むために、大豆が食品になるまでの様子が書かれている文章を視写したり図でまとめたりすること。
- エ 学習したことに対して自分の考えをまとめる力を付けるために、感想を書くこと。

【研究仮説2「読むこと」に関わる学習技能を身に付ける活動を工夫する。】

- ア 「初め」「中」「終わり」という文章構成について指導する。
- イ 初めに「中心文」その後に「中心文を支える文」という表現方法について指導する。
- ウ 指示語の意味と指示語の指す言葉の見つけ方について指導する。
- エ 段落の「小見出し」を作る方法について指導する。

5 単元の指導と評価の計画（17時間）

段階	時間	主な学習活動	具体的評価規準 (おおむね満足している)	努力を要する児童への支援
つかむ	1	○題名をもとに、大豆を使った食品について知っていることを発表する。 ○新出漢字の読み方を確かめ、語句の意味を調べる。 ○全文を読み感想と学習の見通しを持つ。	○初めて知ったことや疑問点等について感想をまとめている。	○一緒に文章を読み、書かれている内容に着目させながらまとめさせる。
	2	○全文を「初め」「中」「終わり」に分け、大まかな文章構成をつかむ。	○教材文の大まかな文章構成をつかんでいる。	○食品名や接続語に着目させて考えさせる。 ○学び合いでまとめた表に着目させ、理解させる。
	3	○感想をもとに、学習課題を立てる。	○学習課題を立てている。	○初発の感想をもとに考えさせる。
ふかめる	4	○大豆がいろいろな食品に変えられる理由を読み取る。 ①②	○大豆がいろいろな食品に変えられる理由を読みとっている。	○「大豆」という言葉に着目させ、主述の関係を明らかにしながら考えさせる。
	5	○大豆をおいしく食べる工夫を読み取る（1） ③④⑤	○食品名や材料、手の加え方に着目して、大豆をおいしく食べる工夫を読みとっている。	○食品名や材料などに着目させる。 ○グループ学習や友だちの発表を通して気づかせる。
	6 本時	○大豆をおいしく食べる工夫を読み取る（2） ⑥⑦	○食品名や材料、手の加え方に着目して、大豆をおいしく食べる工夫を読みとっている。	○食品名や材料などに着目させる。 ○グループ学習や友だちの発表を通して気づかせる。
	7	○多くの食べ方が考えられた理由と筆者の感想を読み取る。 ⑧⑨	○多くの食べ方が考えられた理由と筆者の感想を読みとっている。	○文末表現に着目させて考えさせる。
まとめ	8	○小見出しを作る。 ○文章構成を確認する。 ○学習したことを振り返り、感想を話し合う。	○文章構成を理解し、複合教材で文章を書いていく見通しを持っている。	○これまでの学習をまとめた壁面掲示に着目させる。
ひろげる	9 10	○本の調べ方を確認し、様々な本で実際に調べる。	○本の調べ方を理解し、活用している。	○一緒に本を読み、調べ方を確認する。
	11 12	○調べたいことを決め、図書資料を使って調べる。	○調べたい事柄を決め、本を探して調べている。	○学び合いで何について調べるか出し合った具体例に着目させる。
	13 14 15	○調べたことをまとめ、文章を書く。	○調べた事柄を分かりやすくまとめている。	○「すがたをかえる大豆」の文章構成を振り返らせる。
	16 17	○書いた文章を読み合い、互いに評価し合う。	○文章を読み、友だちの表現の良さに気づいている。	○表現の良さを補足説明する。

6 本時の展開 (6 / 17)

(1) 本時の目標

○大豆をおいしく食べる工夫について読みとることができる。

(2) 具体の評価規準

	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する児童への手立て
読むこと	大豆をおいしく食べる工夫を正しく読みとり、図でまとめたり、模型を用いて説明したりしている。	食品名や材料, 手の加え方に着目して, 大豆をおいしく食べる工夫を読みとっている。	○食品名や材料などに着目させる。 ○グループ学習や友だちの発表を通して気づかせる。

(3) 本時の指導における仮説との関連

〈仮説1に関わって〉

ア 段落のおよその内容を把握するために、中心文にサイドラインを引くこと。

イ 大豆がどのように手を加えられていくか細かい点に注意して読むために、大豆が食品になるまでの様子が書かれている文章を視写したり図でまとめたりすること。

ウ 学習したことに対して自分の考えをまとめる力を付けるために、感想を書くこと。

〈仮説2に関わって〉

ア 学習技能として、初めに「中心文」その後に「中心文を支える文」という表現方法について指導する。

イ 学習技能として、指示語の意味と指示語の指す言葉の見つけ方について指導する。

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点 (・) 評価の観点 (◎)
つかむ	1 前時の学習を振り返る。 【仮説2 ア】	・どんな工夫があったか、どんな食品があったかを確認する。 ・中心文とそれを支える文に着目させ、筆者の論の展開を確認する。
3分	2 本時の学習課題を確認する。 大豆をおいしく食べるための工夫を読みとろう。	
ふかめる	3 学習課題を解決する。 (1) 課題解決の見通し ①「食品名」「手の加え方」「工夫」「大豆」がキーワードであることをおさえる。 ② ⑥⑦段落を音読する。 (2) 課題解決のための読み取り ①中心文にサイドラインを引く。 【仮説1 ア】 ②工夫からできる食品を確認する。	・音読は3回行う。1回目は、本時の学習場面を確認するための一斉読み、2回目はキーワードに注意しながら読むための各自読み、3回目は指名読みをし、視点を与えて読んだり聞いたりさせる。 ・作業の遅い子には机間巡視で「くふう」「段落の最初の文」に着目させる。 ◎中心文にサイドラインを引くことができたか。(観察・発表) ・「さらに」「これらのほかに」の使い方について説明する。 ・⑥段落では「なっとう」と「みそ」(しょうゆは、付け足し程度) ⑦段落は「えだ豆」と「もやし」であることを確認する。

ふかめる	<p>③「なっとう」になるまでの様子を読みとる。 (一斉)</p> <p>④「みそ」になるまでの様子を読みとる。 ・みそになるまでの様子がかかれていところを視写したり図にしたりする。(一人学び)</p> <p>【仮説1 イ】</p> <p>・操作活動をする。 小グループ ↓ 一斉学習 ・指示語の指す言葉を明らかにする。</p> <p>【仮説2 イ】</p> <p>⑤大豆を「えだまめ」や「もやし」にする様子を読みとる。(一斉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な材料を確認する。</li> <li>・「むす」の意味を確認する。</li> <li>・どんなところにどのくらい置くか確認する。</li> <li>・小さな生物は何かを考えさせる。</li> <li>・写真で「ナットウキン」を見せる。</li> <li>・ペープサートを使って操作させ確認する。</li> </ul> <p>・一人学びの進め方を指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習の進め方を確認する。</li> <li>・模型を準備する。</li> <li>・小さな生物について確認する。(写真の提示)</li> <li>・「むした米か麦」について確認する。</li> </ul> <p>◎大豆がみそになる様子を読み取ることができたか。(観察・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「時期」「育て方」に着目させ考えさせる。</li> </ul>
35分	<p>4 学習のまとめをする (1) 学習課題に対するまとめ</p> <div data-bbox="277 1043 1382 1128" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大豆をおいしく食べるために、小さな生物の力でちがう食品にしたり、とり入れの時期や育て方のくふうをしたりしている。</p> </div> <p>①筆者の論の展開について知る。 【仮説2 ア】</p> <p>(2) 本時の学習を振り返り、感想と自己評価をする。 【仮説1 ウ】</p> <p>7分</p> <p>5 次時の学習の見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の場面と同じように「初めに中心文、あとにそれを支える文」になっていることを確認する。</li> <li>◎本時の学習に対して自分なりの感想を持つことができたか。(観察・発表・ノート)</li> <li>・次時は「終わり」の段落を学習することを確認する。</li> </ul>

(5) 板書計画

<p>大豆をおいしく食べるために、小さな生物の力でちがう食品にしたり、とり入れの時期や育て方のくふうをしたりしている。</p>	<p>⑦ これらのほかに、とり入れる時期や育て方をくふうした食べ方もあります。 えだ豆・・・時期 大豆・・・育て方</p>	<p>写真 みそ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みそを作るには、まず、むした米か麦にコウジカビをまぜたものを用意します。それと、しおを、にてつぶした大豆にくわえてまぜ合わせます。ふたをして、風通しのよい暗い所に半年から一年の間おいておくと、大豆はみそになります。</p> </div>	<p>写真</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>むした大豆にナットウキンをくわえ、あたたかい場所に一日近くおいて作ります。</p> </div> <p>ペープサート</p>	<p>⑥</p> <p>手がかりとなる言葉 (大豆 食品の名前 工夫 手のくわえ方)</p> <p>さらに、目に見えない小さい生物の力をかりて、ちがう食品にするくふうもあります。 なっとう</p>	<p>すがたをかえる大豆 めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大豆をおいしく食べたべるくふうを読みとろう。</p> </div>
---	---	---	--	--	--